



同窓会だより

発行 愛知工業大学名電高等学校同窓会

〒464-8540 名古屋市千種区若水 3-2-12
TEL (052) 721-0311 (代表)

題字は後藤泰名古屋電気学園学园长・総長

春光麗らかな好季節を迎え、会員の皆様、同窓会関係者の皆様におかれましては、ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

日頃より同窓会の運営につきまして、多大なるご支援、ご協力を賜っておりますこと心から感謝いたします。

母校、愛知工業大学名電高等学校は百年を超える歴史と伝統を誇り、卒業生も六万名を迎えるまでになりました。創立者後藤喬三郎先生の「誠実の人、努力の人、素直な人となれ」の教えによる校訓「誠実」「勤勉」、先ごろなされた「部活動宣言」は、文武両道の偏らない人格の形成を期する、我々が母校の誇れる校風を表すものであります。

その成果が結実し、卓球部やフェンシング部の全国大会制覇をはじめ、世界で活躍する生徒も出ており、部活動の活躍は目を見張るものがあります。

進学も愛知工業大学はもちろん、国立をはじめ有名大

絆を繋ぐ同窓会へ

永井広明・新会長

(昭和51年卒業)

学への合格者を多数輩出するに至っております。

我々同窓会もこの度、百周年を迎えました。同窓会長の任に与るにつき、その伝統の重みを感じざるを得ません。同窓会の目的は会



員相互の親睦を図り、母校の校風、伝統を守り、その発展を願い、共に学び、築いた生涯の友、先輩、後輩との「絆」をさらに深め、同窓の皆様と共に次代に続く若い世代の方々へと繋いでいくことにあると思っております。新たな時代へ、その絆をさらに繋ぐために卒業生の里帰り企画「ホームカミングデー」という新しい事業も開始いたしました。これをさらに発展させてまいります。

現在、世界は大きな変革点にさしかかっております。欧州の政治経済不安、米国の政権交代、排他主義の台頭、

相次ぐ自然災害、社会情勢も厳しいものがあります。不安の種は尽きません。しかしながら、我が同窓生は実業界をはじめ各界において、素晴らしい活躍をしておられます。その力を結集すれば、大きな力となるものと考えております。母校や同窓会の発展運営に、会員の皆様のさらなる積極的な参加を心からお願ひ申し上げます。

これまで長きにわたって、ご尽力いただきました歴代の同窓会長に感謝し、母校愛知工業大学名電高等学校の発展と同窓会のみましますの繁栄、ならびに同窓会員の皆様のご健康とご活躍を祈念いたしまして、就任のご挨拶とさせていただきます。

よき伝統の継承を

後藤泰之理事長

(同窓会名誉会長)

昨年五月、前理事長から引き継ぎ、愛知工業大学学長と併せて、新たに名古屋電気学園理事長に就任いたしました。



今年で創立百五周年を迎える学園は、これまで前理事長の強力なリーダーシップのもと、教職員はもとより各設置校の同窓生の方々のご理解、ご協力により、工科系総合学園として発展、充実することができました。

名電高校も県内の私立高校で一、二を争う受験生を集め、卒業後の進路においても着実な成果を上げています。さらに、卓球部、野球部、吹奏楽部をはじめとして、全国大会の常連校としてめざましい成績を収めて日本中に校名を轟かせ、まさに文武両道を実践しております。

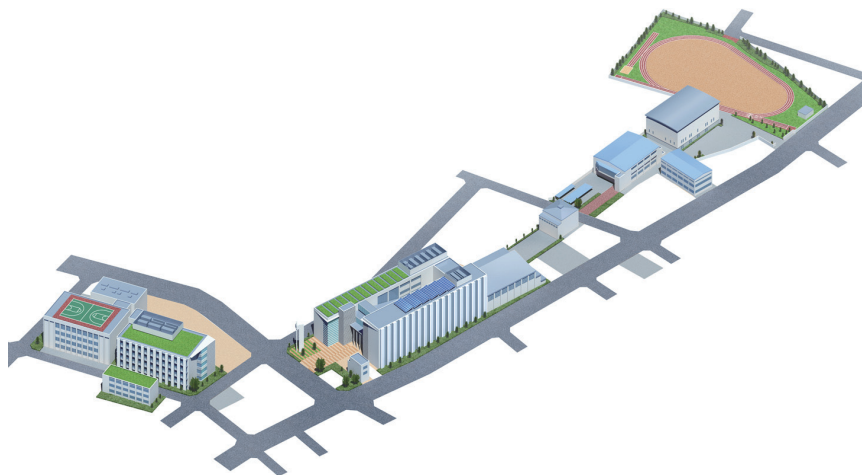
理事長に就任して、母校のよき伝統が今後も守られ受け継がれていきますよう邁進してまいります所存ですので、ぜひ今後とも同窓生の皆様には変わらない応援をお願い申し上げます。

名電高校第1回ホームカミングデー

愛知工業大学名電高等学校同窓会は昨年11月6日、同窓生の絆を深めるための里帰り企画「第1回ホームカミングデー」を開催しました。

午前9時に受け付けが始まり、次々と母校に足を運んだ同窓生たちが、クラブの後輩と談笑したり、保存されていたアルバム写真にかつての自分の姿を見つけたり。新しい学校施設に目を見張り、恩師や旧友との再会を喜び合いました。

この日は若手のクラス幹事を中心に約30人がスタッフを務め、そろいのロゴ入り白ジャンパー姿で休憩スペースの設営や、来訪者の案内に取り組みました。



校舎建て替えから現在までの歩み

- 2000年(平成12年)から始まった校舎建て替え。
- 2001年(平成13年)北校舎完成。
- 2002年(平成14年)情報科学科新設。武道場完成。
- 2007年(平成19年)専門学科改編。(科学技術科・情報科学科)
- 2009年(平成21年)南校舎完成。
- 2012年(平成24年)淳和記念館完成。
- 2016年(平成28年)瑞若スポーツセンター完成。



若いクラス幹事たちが会場を設営



受付に足を運ぶ同窓生と、対応のスタッフ



後輩の手を借り、アルバムに自分の姿を探すOB

母校に寄せて・昭和53年3月電子科卒業生の来訪記



私はブラスバンド部に所属してました。当時は五階建ての古い校舎で、エレベーターも無く、楽器を運ぶにも狭い廊下や階段を四苦八苦しながらでした。夏は暑くて

汗をかきながらの練習。あまり良い環境とはいえないのでした。その面影は全く無く、すべてが変わっています。部室も合奏ホール、楽器ごとのパート練習室など、まさに音楽を行うために建て替えた



同期の関谷君に誘われ、三十八年ぶりに母校を訪れました。新しくきれいになっていた校舎に目を奪われ、成績優秀な生徒が数多く在籍していることにも驚かされました。そして、吹奏楽部の素晴らしい演奏に思わず涙を流してしまいました。

「クラブ活動に注ぐ情熱」 坪井雅也さん

ような校舎に圧倒されるばかりでした。見学中、当時の写真を拝見することができました。中国へ訪問演奏に行った時の写真の中に私の姿があり、唯一懐かしさを感じました。色あせた写真は、時の流れを感じ一枚でした。
男女比率も変わっていました。当時、部員数八十名中、女子十名程度でしたが、現在は百八十名、男子はわずか三十名、逆転です。また、優秀な生徒ばかりで、この日はすれ違うたび挨拶をしてくれたことに戸惑いすら感じました。
そんな中で一つだけ、昔と変わらないと感じたことがあります。それはクラブ活動に注ぐ情熱です。年間五日程度しか休みがない中で、毎日一生懸命に頑張っている姿は昔と変わっておらず、うれしさを感じました。

「高校生のキラキラしたまなざし」 廣田誠さん

家に帰ってからもうチューブで吹奏楽部の演奏を聴き、あのときの余韻に浸っています。皆様、次回のホームカミングデーでお会いしましょう。聞くところによると（実体験する）とは大違い。現役世代の皆様には、ぜひとも情報処理の専門学科をご見学いただくようお願いいたします。一目で技術力の高さを理解されると思います。これほどの情報処理技術があれば、老後もすごしやすい環境に変わっていくでしょう。
明るい希望が持てる未来が、現在の名電高校から生まれる可能性が大きいと実感できるはずですよ。夢をかなえる高校生のキラキラしたまなざしを通し、もういちど夢を見ませんか？ きつとあなたも元気になるはずです！ 高齢者が元気に生きる姿を若い世代に見せることも、なによりの教育になります。それまで、お元気で！

三十八年ぶりに母校を訪ねてみると、ホームページでは拝見していましたが、変貌ぶりに驚くばかりでした。私の高校時代は教室の窓が鉄枠で動きが悪く、机も年季が入っていました。電子工学科棟は体育館が隣接しており、それにより風通しが悪く、夏は暑く、冬はとても寒い教室でした。また、体育の授業は運動場がなかったため、体育館でしか行わなかったように思います。当時はそれでも楽しい学校生活を送ることができました。
部活の教室も見学しました。生徒の興味を引く文化部が多数あり、うらやましく思いました。残念ながら私は三年間部活を行っていません。今思えばどこかに所属していたらと思います。その代わり、大須の電気街で電子部品を買って、ラジオ製作の本を参考に、家で音の光伝送や電池が要らないラジオなど、少ない小遣いでいろいろ作ったり、アマチュア無線従事者免許を取ったりしました。
今の生徒は礼儀正しく優等生ばかりで、先生方の指導の賜物だと思います。今の一年生が社会人になるころには、私たちは還暦となり一線から退きます。生徒たちの夢の背中を押してやれる学校づくりをこれからもお願いしたいと思います。



瑞若スポーツセンターとして整備されたグラウンドで

「夢の背中押す学校づくりを」 土屋栄作さん

永井新会長ら選出

平成二十八年役員総会は昨年五月二十七日、名古屋市内のホテルで開かれ、四十二人が出席しました。新会長に永井広明氏、新副会長に今津孝氏、新監事に森田千明氏、新理事に小林ゆかり氏と熊田裕明氏を選出したほか、会長の指名により新常任理事に立木大介氏と松永成美氏を選びました。また、学園の後藤泰之理事長が新名誉会長、前会長の葛谷捷臣氏が顧問に就任しました。総会では平成二十八年度事業計画や予算案などを了承しました。6面に新役員挨拶の挨拶。

若手クラス幹事と交流

昨年十一月六日のホームカミングデー終了後、同窓会役員とクラス幹事の懇親会が名古屋市内のホテルで開かれ、合わせて五十人がにぎやかに交流しました。永井会長は「ホームカミングデーを同窓会の新しい事業の柱として育てていきたい」と、次回以降の協力を呼びかけました。



懇親会でフルートを演奏した卒業生の笠置陽子さん

平成29年卒業クラス幹事の皆さん

【科学技術科】▽A組 小塚勇輝、櫛元堅汰▽B組 古橋直也、水口遥菜▽C組 磯村旬哉、布元蓮▽D組 杉本怜駿、安部みなみ▽E組 杉浦圭亮、渡邊匠

【情報科学科】▽A組 中山亮、真鍋城士

【普通科】▽A組 堀井英敬、上床俊太▽B組 吉兼有希子、石原明▽C組 周防奈美、渡辺智哉▽D組 神田凌佑、安江季都緒▽E組 牧裕人、山下祐輔▽F組 大西菜南子、貫井貴晴▽G組 山内光、山本雄大▽H組 出井一彰、岸田歩夢▽I組 鳥羽敬太、松田海飛▽J組 岩本昇龍、森皓己▽K組 浅田峻頼、松村英生▽L組 赤尾拓海、山本織温

鴻野淳基さん

ボーイズリーグ愛知県西支部に所属する「愛知名港ボーイズ」の監督に昨年四月就任。同年十月、発足してまだ三年目のチームを第十二回ミズノ旗争奪東海大会優勝に導きました。一気に他からマクされるチームへと鍛え上げた新監督は「まずは強豪が多い西支部で一番にならなければ」と気を引き締めています。



愛工大名電野球部OB会長が開設した名港スポーツセンター「錬成館」(名古屋港区)で少年野球のコーチをしています。

高校野球部では四番打者。プロ入りして巨人軍などで活躍後、マスターズリーグでもプレーしました。現在は奥村衛・愛工大名電野球部OB会長が開設した名港スポーツセンター「錬成館」(名古屋港区)で少年野球のコーチをしています。秋、三重県桑名市多度町に専用球場が完成し、練習環境が整いました。監督として自ら体を動かしてお手本を示す一方、同じ名電出身の若いコーチ陣(石田淳也さん、丸山貴史さん、難波光太郎さん)をまとめる立場も担っています。

同窓生の活躍

「何回言っても分からないのが子供というもの。ではどうすればいいか。分かるまで何回でも言うんです」。真剣な指導の場を離れば、サプライズで選手に誕生日を祝ってもらい、相手を崩す場面も。写真は目標は夏の全国大会制覇です。(昭和55年卒業)

平手美咲さん

「レッツゴー、ペパニーズ」。体育館に、子供たちの元気な掛け声が響きます。学園などの主催で、小学生を対象にしたジュニアチアリーディングチーム「ドリームペパニーズ」の活動が昨年七月から若水キャンパスの瑞若スポーツセンターで始まりまし



「野球部が選抜で優勝して、沸き返っている中の入学でした。甲子園に三年続けて応援に

「ドリームペパニーズ」の「ペパン」は、フランス語で「種」。地元「千種区」にちなみ、「千」(たくさん)の夢を持った「種」を育てたいという思いから名づけました。中部のチアリーディング人口をさらに増やしたいという願いも込められています。日々の練習で子供たちに「チアが楽しい」と伝えるよう心がけています。(平成20年卒業)

「野球部が選抜で優勝して、沸き返っている中の入学でした。甲子園に三年続けて応援に

春日井市で接骨院を開業し二十五五年になります。私は、スポーツ損傷が専門で、多くの選手やスポーツ愛好家の治療を行いながら、日本ウエイトリフティンク(WL)ナショナルチーム、本校硬式野球部のトレーナー活動を行っています。三十一年前の入学当時、剣道部見学のためクラブ体育館の階段を上るはずがWL部監督高橋力先生の恒例ハニートラップに遭遇。「見学は一階から見ているもの」と呼び止められ、なぜか翌日からWLの練習に参加していました。



やあ！ お元気ですか

業(昭和)卒業し、たくさんの患者様に接してきました。それは必ずしもスポーツ傷害というわけではなく、いろいろな患者様が、様々な経験をさせてくれたと思っています。

わり続けていました。そんな中、故野牧一雄先生(当時校長)の推薦で平成十二年、日本体育協会公認アスレティックトレーナーの資格を得、WLのみならずいろいろなスポーツにおいて活動を広げる機会を頂きました。倉野光生監督に出会い野球部トレーナーの活動を始めたのもその頃です。

練習は厳しく、加えて諸先輩方の来校でさらに激しい練習になり、泣きながらシャフトを握った記憶があります。しかし指導されていくうちに極限を追求した後の充実感や、筋力体力が強化されていく身体の変化に、いつの間にかWLに魅せられていました。大学に進学後もWLにのめり込み、卒業後は先輩の指導や役員を通してかか

現在、日本オリンピック委員会医科学スタッフとして活動しています。二〇二〇年の東京オリンピックは、私にとって五十代最後のビックイベントです。こんな私でも手伝えることは積極的に参加し、今まで出会った方々に感謝しながら活動を続けていきたいと思っています。

バレーボール部は、本年度のインターハイに四年連続十七回目の出場を果たしました。四年連続での全国大会出場は創部タイの記録であり、来年度は新記録となる五年連続出場、そして二〇一五年の春の高校バレー全国大会ベスト4以上の結果を目指し練習に励んでいます。



全日本高校選手権愛知県予選の決勝から(昨年11月19日)

ます。部のモットーは「一流のバレーボールプレーヤーを目指すのではなく、バレーボールもできる一流の人間になること」です。厳しい練習に取り組むことはもちろんですが、それ以上に学業や生活態度の改善に力を注いでいます。

加藤芳美前監督の「厳しさの中にも自主性を重んじる練習」を継承しつつ、その中で育った部OBの方々からの力添えを頂きながら、学校全体から応援される部を目指して奮励してまいります。(北川祐介教諭)

バレーボール部 → 高校クラブ紹介 ← 将棋部

高校将棋は主に五月に(全国大会)県予選、七月と二月に東海(三県高校将棋選手権)大会、十一月に(全国高校将棋)新人戦県予選があります。平成十八年より前は、東海高校が断トツの主役でしたが、十八年以降は愛工大名電が主役を奪いつつあります。平成十八年は県予選男子団体戦で東海高校の団体戦二十六連覇を阻止し、全国大会初出場で三位に。四年後の平成二十二年から東海三県高校将棋選手権団体戦四連覇、二十三年は全国大会団体戦男子三位、二十四年は県予



選で南山女子の団体戦十五連覇を阻止して初出場で初優勝。翌二十五年も連続優勝しました。二十六年は女子団体戦全国五位、二十七年は全国大会に個人で男子二人、女子一人、二十八年は個人で男子一人が出場しましたが、個人戦の壁は厚く、予選は突破するも敗退です。二十六年から東海高校将棋選手権団体戦三連覇、二十八年も七月優勝しています。現在、部員は一年と二年の男子が三人ずつの六人です。女子部員は昨年からいません。少数精鋭で頑張り、念願の男子団体全国一位を目指します。(原野照久教諭)

「絆を繋ぐ広報活動に邁進」

今津孝副会長・広報委員長 (昭和39年卒業)

諸先輩方の推挙により役員総会において副会長に就任いたしました。同窓生六万名を迎える百年の歴史と多くの諸先輩方が苦難を乗り越え築き上げた伝統のある同窓会の運営の一端を担うことになり、さらに広報委員会委員長をも仰せつかつて責任の重さに身の引き締まる思いです。今後は永井会長を補佐し、同窓会の目的でもある会員相互の親睦を図り、次の若い世代との「絆」を深め、さらなる発展を目指していききたいと思っております。



平成二十二年九月、学園、PTAの方々のご理解とご尽力により資金も確保され、懸案事項であった同窓会会報「同窓会だより」を発刊することができました。平成二十四年四月には「同窓会ホームページ」をリニューアルして、会員の皆様

新役員の皆さん

同窓会が学園創立から四年後に発足して平成二十八年に百周年を迎えるにあたり、新たな事業として会員相互の旧交と親睦を深めようとして「ホームカミングデー」を開催しました。今回、若い会員の方々に企画から参加してもらい、当日は、会場準備、受付、案内等にまで協力して

「挑戦し続ける感性を糧に、絆をより強く」 森田千明監事 (昭和40年卒業)

平成二十四年度から同窓会理事、今年度から監事を務めさせて頂いています。理事の役割は、十八歳から八十歳代の広い世代にわたる同窓生の絆をどのように図るかにあると思えます。例えば、平成二十八年現在、「同窓会だより」の發送先は、校名が愛知工業大学名電高等学校に変わってからの同窓生が全体のほぼ54%に達しています。



また、私など団塊世代は、歳を重ねても円く収まることなく、何かと挑戦し続ける感性を持ち続けているように感じています。その感性を糧にして、百年の歩みに育まれた絆をより強く繋ぐ責務を果たしたいと思っています。

この度、同窓会常任理事を仰せつかりました。卒業後四十年を超え、学校へ足を運ぶこともなくなっていました。が、今回、同窓会常任理事の



立木大介常任理事 (昭和51年卒業) 卒業生として同窓会の大活躍を

強くしていくこと、現役高校生のためにエールを送り続けることが必要であると思っております。微力ながらお手伝いをさせていただきます。よろしくお願いたします。



小林ゆかり理事 (平成17年卒業) 嬉しく思うことが多く、大変です。在校生とのコミュニケーションを図る機会があれば、社会人とのつながりを強化することで就職にも進学にも良い影響があると考えます。皆様のお役に立てるよう頑張ります。

今年度より同窓会の常任理事を仰せつかりました。理事として四年間務めさせて頂きました。諸先輩方のご指導を受け、微力ではありますが永井会長



松永成美常任理事 (昭和56年卒業) のサポートに全力を尽くす所存です。

また若い会員が参加して頂ける同窓会となるような活動を進めていきたいとも考えておりますので、皆様今後とも御協力の程、よろしくお願申し上げます。

今年度より同窓会理事として新規事業などに参画いたします機会をいただくこととなりました。歴史のある学校なので同窓生が多いのですが、他の年代



熊田裕明理事 (平成20年卒業) の方と知り合える機会が少なくてお

ます。同窓会が主体となり、イベントやサポートを行うことで、同窓生の再会や新たなつながりの機会をつくれるよう新規事業の推進に努めてまいります。

高校と附属中の卓球、フェンシング部が全国優勝

名電高校と附属中学校の各卓球部、各フェンシング部が、それぞれ昨夏の全国大会で優勝しました。

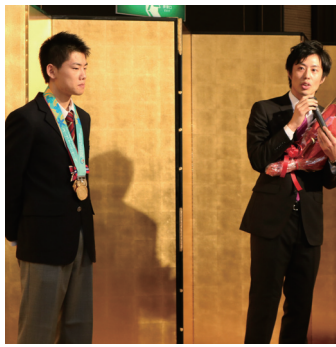
高校卓球部は全国高校総体卓球男子で、団体・単複のすべてに優勝する完全制覇(四十八年ぶり)を成し遂げました。団体戦は決勝でライバル校の野田学園を下し、二十一年ぶり十六



勝利をあきらめず戦い抜いた附属中卓球部



全員で日本一を勝ち取った高校卓球部



「絶対に優勝」の気迫で臨んだ高校フェンシング部

回目の日本一に。シングルスは名電勢がベスト4を独占、木造勇人選手が二十五年ぶり七回目となる名電のシングルス優勝を獲得しました。ダブルスは高見真己選手と田中佑汰選手のペアが名電として二年連続九回目の優勝を果たしました。附属中卓球部は全国中学校卓球大会の団体戦で、中四連覇、通算十回目となる優勝を果たしました。これぞ春の選抜と合わせ全国大会八連勝となりました。高校フェンシング部は全国高校総体フェンシング男子で、個人対抗サーブルの森皓己選手が名電として十四年ぶり四回目の頂点に立ちました。附属中も第二回全国中学生フェンシング選手権大会で、前身大会の全国少年フェンシング大会



附属中フェンシング部の選手たちは今が伸び盛り

を含めて初優勝。男子個人サーブルの加藤響選手も初優勝しました。名古屋電気学園クラブ活動後援会は昨年九月二十八日、名古屋ガーデンパレスで祝賀会を開いて選手たちの快挙をたたえました。写真。

工藤公康氏が後輩に「授業」



後輩にアスリートの心構えを説く工藤公康監督

名古屋電気学園の平成二十八年年度後藤鉦二賞受賞者の一人である工藤公康・福岡ソフトバンクホークス

監督(昭和57年卒業)は、授賞式があった一月十二日、母校の後輩たちとの交流の時間を持ちました。普通科スポーツコースで学ぶ一〜三年生約百人を前に、一時間近くに及ぶ「授業」をしました。「自分の限界を考えるのではなく、この先にある未来に絶対に制限をつけないという考え方で」と、アスリートとして長く生きていくための心構えを説きました。

澤田勉先生が逝去

励吹奏楽部、将棋部、ボウリング部▽センター試験受験者激励の合格グッズ

高校相撲部監督を長く務め、大相撲の元幕内朝乃若(現若松親方)や元幕内武雄山(現山分親方)らを育てた同校社会科学教諭の澤田勉先生が昨年十月一日に逝去されました。六十三歳でした。昨年十月一日開幕した岩手国体に相撲部を率いて出場し、通算三十回以上出場の表彰を受けるなどしましたが、岩手県花巻市内で体調不良を訴えて帰らぬ人となりました。

◆同窓会からお祝い
二十八年度、高校のクラブ活動などに以下のように激励とお祝いをしました。▽五月・全国大会優勝のお祝い▽バドミントン部、卓球部▽七月・全国大会出場クラブ激励▽卓球部、フェンシング部、バレーボール部、相撲部、バドミントン部、ウエイトリフティング部、陸上部、ボウリング部、チアリーディング部、将棋部▽十月・全国大会出場激励
吹奏楽部、水泳競技部、陸上競技部▽十一月・全国大会優勝のお祝い▽卓球部、フェンシング部▽十一月・全国大会出場クラブ激励

澤田先生は昭和五十二年に名電高の社会科学教諭となり、翌五十三年四月に相撲部監督に就任しました。部活動以上に生活態度や学習を重んじる指導を行い、同部を全国高校総体(昨年で三十二年連続三十六回目の出場)の上位入賞常連に鍛えました。通夜は昨年十月三日、告別式は十月四日、名古屋市内で営まれ、学園や相撲競技の関係者、岩手国体の試合を終えた相撲部員などの教え子ら多数が参列しました。

岩間博校長の学校報告

永井会長様をはじめ同窓会会員の皆様には、日ごろから本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございますこと心から感謝申し上げます。



私は、昨年四月より愛知工業大学名電高等学校及び愛知工業大学附属中学校の校長として、学監となられました前任者の久保芳孝先生の助言もいただきながら、昨年度策定いたしました本校の中期ビジョンの具現化と円滑な学校運営の推進に努めております。

平成二十八年度は、高等学校に六百二十六人、附属中学校に百四人の新入生を迎えてスタートいたしました。入学式当日の玄関には、「快挙！名電の歴史に新たな一ページ」の歴史に新たな一ページ！の掲示がかかげられ、新入生への歓迎のエネルギーとなっておりました。また、入学式に間に合

Meiden 世界を舞台に活躍

されました。さらに春日井市の神領にありまます本校グラウンドの野球場も拡張工事が行われ、天然芝と最新設備の整った「後藤淳記念球場」として生まれ変わりました。こうした充実した施設・設備のもとで、生徒は学習活動や部活動に力いっぱい取り組んでいます。

学習面では、現在、英語教育の改善が教育改革の柱の一つとされており、「読む、書く、話す、聞く」の四技能のバランスのとれた指導の充実が求められています。本校においてもリスニング指導の強化や本校独自の英語教材の作成など、生徒のコミュニケーション能力を高めるべく指導の工夫改善に努めているところです。

また、専門学科では各種の資格試験に挑戦し、特に難関資格試験といわれる情報処理技術者試験（応用・基本）、同ITパスポート試験をはじめとして、電気工事士技能試験、計算技術検定、危険物取扱者試験などに多くの生徒が合格しています。さらに部活動においては、今年度も吹奏楽部をはじめ、多くの部が全国大会出場を果たしました。なかでも特筆すべきは、

卓球部が二十一年ぶりの全国高校総合体育大会（インターハイ）男子学校対抗の優勝、ダブルス是一位と三位、シングルスは一位から四位までを本校が独占という、まさに完全優勝を成し遂げたことです。

そして、その原動力となった二名の選手がジュニアの世界卓球選手権の日本代表に選ばれ、彼らの活躍もあつて日本が十一大会ぶりに団体優勝を果たし、本校の選手が世界の頂点に立つことができました。

このほか、バドミントン部ではパラ・アジア大会で準優勝、フュンシング部ではインターハイのダブル個人で優勝するなど、来る東京オリンピック・パラリンピックにおいて本校の卒業生がMeidenの旗の下で活躍することへの期待が高まる一年でした。

こうした成果も、同窓会の皆様の母校に対する温かいご支援があつてのことと、この紙面をお借りして深く御礼申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝、ご活躍を祈念しつつ報告とさせていただきます。

高校PTAから

同窓会会員の皆様におかれましては、益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃はPTA活動に対し、ご理解とご協力を賜りありがとうございます。どうぞございます。

平成二十八年度PTA会長を務めさせていただきます。前任者の瀬田会長からバトンを引き継ぎ、今年度

子供たちの成長に力を合わせて

桂秀・高校PTA会長



桂 秀会長

も愛知県私立中学高等学校保護者会連合会副会長、並びに名古屋支部長を務めております。

このため、今年度は十月に名古屋市公会堂で行われた私学振興推進大会、十一月の東京での私学振興全国大会の式典において、私学教育の必要性を『保護者の願い』として発表させていただきました。

また、本校PTAの活動として、二度の校外パトロールと愛知工業大学見学会を実施し、多くのPTA役員並びに会員の皆様にご参加いただきました。

こうしたPTA活動の場を先生方と保護者、保護者同士の交流の場として情報や意見の交換を行い、先生方と保護者が力を合わせて子供達の成長を助けていくことが大切

であると思えます。

本校の栄えある歴史と伝統は、歴代の校長先生をはじめ、教職員の方々の熱意ある指導の賜物だと思えます。今後とも在校生の皆様が伝統を力として何事にも前向きに取り組み、愛知工業大学名電高等学校の新しい歴史を創り出してくださることを期待しております。

皆様方のご健康とご活躍、そして同窓会のご発展を心よりお祈りし、保護者代表の挨拶とさせていただきます。